

会 議 録

会議の名称	第3回小金井市子ども・子育て会議		
事務局	子ども家庭部子育て支援課		
開催日時	平成27年10月27日(火) 午後7時～9時		
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階 801会議室		
出席者	委員	会 長 松田 恵示 委員 会長職務代理 新保 佳子 委員 委 員 飯嶋 智広 委員 岩野 秀夫 委員 小幡 美穂 委員 沢村 耕太 委員 水津 由紀 委員 高橋 みさ子 委員 鳴海 多恵子 委員 布谷 美幸 委員 馬場 利明 委員 森田 眞希 委員 欠席委員 小川 順弘 委員 佐々木 徳行 委員 原島 康晴 委員	
	事務局	子ども家庭部長 佐久間 育子 子育て支援課長 高橋 正恵 保育課長 鈴木 遵矢 児童青少年課長 伏見 佳之 子育て支援係長 福井 英雄 子育て支援課主任 矢島 隆生	
傍聴の可否	(可) 一部不可 ・ 不可		
傍聴者数	10人		
会議次第	1 開会 2 小規模保育事業の開始について(報告) 3 「のびゆくこどもプラン 小金井(小金井市子ども・子育て支援事業計画)」の進捗状況の点検・評価 4 閉会		
発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨)	別紙のとおり		
提出資料	資料13 「のびゆくこどもプラン 小金井(小金井市子ども・子育て支援事業計画)」事業進捗状況評価表に対する質問・意見等について		

	<p>資料14 「のびゆくこどもプラン 小金井（小金井市子ども・子育て支援事業計画）」事業進捗状況に対する平成27年度評価について（案）</p> <p>資料15 「のびゆくこどもプラン 小金井（小金井市子ども・子育て支援事業計画）」事業進捗状況評価表3</p>
<p>そ の 他</p>	

第3回小金井市子ども・子育て会議 会議録

平成27年10月27日

開 会

- 松田会長 改めまして、皆様方、こんばんは。
- 定刻になりましたので、ただいまから27年度第3回小金井市子ども・子育て会議を開催させていただきたいと思っております。
- 本日は、小川委員から少しご公務でご急用が生じたということで連絡をいただいております。また、佐々木委員からインフルエンザにかかれたというご連絡をいただいております。2名の委員の方が欠席という形で進めさせていただければと思います。あと、沢村委員からちょっとお時間が、遅れられるというご連絡もいただいております。
- それでは、次第に従って、早速、審議に入りたいと思っております。
- まず、配付資料の確認を事務局のほうからお願いしてよろしいでしょうか。
- 子育て支援係長 配付資料ですが、まず、第3回小金井市子ども・子育て会議次第。続きまして、資料13「のびゆくこどもプラン 小金井」事業進捗状況調査表に対する意見質問等についてとなります。こちら、最後にページがふってあるのが10ページまでで、その次に右上に資料13別紙と書いてある資料がついてございます。その次が、資料14「のびゆくこどもプラン 小金井」事業進捗状況に対する平成27年度評価について（案）、こちらはA4、両面で2ページまでとなっております。最後、資料の15になります。「のびゆくこどもプラン 小金井」事業進捗状況評価表3、A3の資料になります。最後が24ページまでとなっております。
- お配りさせていただいた資料、以上になりますが、落丁等、よろしいでしょうか。
- それでは、以上です。
- 松田会長 ありがとうございます。
- それでは、早速、次第2の小規模保育事業の開始についてを行います。
- 平成27年10月開始の小規模保育事業につきましては、これまでこの会議でもご審議いただき、円滑なスタートに向け、一定の要望を行った上で認可を了承したところでございますが、10月からの事業開始後の状況につきまして事務局からご報告をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

- 保育課長 それでは、小規模保育事業の開始についてご報告をいたします。
- 前回の子ども・子育て会議においてご協議いただいた小規模保育施設について、平成27年10月1日に事業を開始したことをご報告いたします。
- 事業計画のとおり、名称はみらいえ保育園武蔵小金井、10月1日開設時点で、0歳児10人、1歳児6人の、児童数計16人で開園しております。園に開園後の状況を確認したところ、保護者、児童ともに特段の混乱もなく、順調に保育を開始できているということを確認してございます。
- また、前回の会議でいただいたご意見について、事業者を確認したことについてご報告をいたします。
- まず、自転車置き場についてご意見をいただきました。状況につきましては、確認したところ、管理規約で店舗の利用者の駐輪場は確保がなかなか難しいということでした。保護者には事前に駐輪場がないことを説明し、理解を得ており、実際に駐輪場に対する要望等は現在ない状況であるとのことです。今後についても引き続き保護者に対しては丁寧な説明に努めたいということを経営者のほうは申しておりました。引き続き送迎時の混乱がないように、状況について随時確認をしていきたいというふうに考えてございます。
- それから、医務室についてです。医務室につきましては、当初の計画どおり、事務室兼医務室での対応とし、現状では1名が安静にできるスペースを確保しているという状況でございます。仮に複数の体調不良児が発生した場合、応急的に場所を確保する等の対応を予定しているということを確認してございます。具体的には、玄関入り口のげた箱のそばに、外から、散歩から帰ってきた場合とかに準備をするスペースがあるのですが、そちらのほうを仕切ることが可能ということで、そちらのほうで複数人の対応が可能ということを確認してございます。
- 報告は以上です。
- 松田会長 ありがとうございます。
- 前回の会議で特に何点かご審議をいただきまして、その事項を中心に少しご報告いただきましたけれども、ご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
- 森田委員 森田です。ビルの建物の中での保育で、お散歩等は順調に行かれているのでしょうか。
- 保育課長 10月1日に開園をして、ならし保育を今は終了してきて、ようやく子どもさんたちも

なれてきたという状況を、今日、現地で伺ったところです。散歩についても、近隣の公園等を利用して今日も行ってきたということは確認してございます。順調に行っているというふうに市では認識しています。

○水津委員 人員の確保は十分予定どおりでしょうか。保育職員とか。

○保育課長 開園に当たりまして基準を満たした人が配置されていることは確認してございます。

○松田会長 ほかにいかがでしょうか。

○布谷委員 安全の確認をしたいんですけども、保育園とかでしたら避難訓練とかあるかと思うんですけども、それはみらいえ保育園独自の中でののか、それともビルと連動して避難訓練とかを行うのでしょうか。それに当たっては市役所の方が1人立ち会ってとか、拝見とかされるのかどうか、お伺いしたいんですけども。

○保育課長 避難訓練につきましては定期的実施することが定められておりますので、園が独自に実施する形になります。商業施設が入っているビルの2階部分になりますので、近隣の店舗あるいは同じフロアにある病院と連携してそういう訓練は行いたいということは確認しているところでございます。

○松田会長 ほかにいかがですか。

本年度から新法に基づいて小規模保育事業を開始しておりますけれども、こういう形でまたご報告をいただきながら、本会議といたしましても注意深く見守らせていただきたいというふうに思いますので、今後ともまたいろんなご意見、賜れましたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そうしましたら、事務局より報告を受け、次第の2は終了させていただけたらと思います。

本日は、次第の3、「のびゆくこどもプラン 小金井」の進捗状況の点検・評価が主たる議案になってございます。前回の会議では資料11の5ページまでの事業進捗状況評価表1、2の審議を大変活発に行わせていただきまして、現在のところ、1、2まで終了しているという状況になります。

そこで、本日は6ページの事業進捗状況評価表3からの審議となります。配付資料がございまして、事務局からまずご説明いただければと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

○子育て支援係長 まず、資料の13になります。事業進捗状況評価表に関しましては事前に委員の皆様からご意見等をいただいたところで、前回会議のときに資料12としてお配りさせていた

できました。その後、小幡委員と高橋委員から追加でご意見等をいただきましたので、それを追加させていただいた資料が資料13となります。

追加した部分に関して、この中でごらんいただきます。色塗りになっている箇所がございますが、それが新たに追加した部分となります。

なお、こちらの資料、最後、10ページになるんですが、一番下の段を見ますと、高橋委員からのご意見が記載されております。ちょっと読みますと、民間保育園の取組み（別紙「平成26年度 特別保育事業および地域子育て支援事業実績」参照）の記載について欠けている部分があります。こちらの別紙につきましては、その次のページについております、資料13別紙と右上に記載された資料、こちらがその別紙に該当いたします。

続きまして、資料14と15になります。計画の進捗状況の点検・評価につきましては、最終的には報告書の形でまとめさせていただきたいと考えております。資料14と15につきましては、その中に盛り込むことを予定しているものになります。

資料14につきましては、前回会議でご審議いただいた中で、事業進捗状況評価の1と2に関しての意見について、計画の中の確保の方針を踏まえまして、平成27年度評価案としてまとめたものになります。詳細については資料をごらんいただければと思います。

続きまして、資料15になります。こちらは事業進捗状況評価表3に関するものですが、本日以降、ご審議いただいた内容を、こういった形でまとめさせたいというイメージの図になります。

まず、資料15の1ページをごらんいただきますと、表がございまして、この表の上の左のほうから見ていきますと、まず番号という欄があって、そこから右のほうにいきますと、平成25年度の現況で、平成26年度進捗状況というところまであります。こちらにつきましては、前回会議でお出しさせていただいた資料11と同じ資料になります。事業の内容の説明と、事業担当課での自己評価が記載されております。

その右のところに行きまして、子ども子育て会議点検・評価結果という欄があります。こちらが今回以降、ご審議いただいた内容を記載するところとなっております。

この下のところを見ますと、まず、評価というところがあります。こちらにつきましては、SからDまでのランクづけをしていただくと。評価基準に関しては、自己評価の場合と同様で、左上のほうに注釈があるとおりSからDのランクづけとなっております。

この表の中を見ますと、既に「A」とか「（要検討）」とか「B」という記載があり

ますが、こちらにつきましては、委員から事前にいただいたご意見に基づきまして、あくまでも暫定的に記載させていただいております。今後の審議結果に基づき、こちらは修正されるものと考えております。

なお、事前にいただいたご意見の中で、自己評価と異なる評価をすべきと、そういったご意見があった場合については「(要検討)」と記載してございます。評価に関するご意見がなかった場合は、仮にということで、自己評価と同じ評価を記載しております。その右の欄に行きまして、意見という欄、そして、質問等という欄があります。こちらにつきましても、委員の皆様から事前にいただいたご意見、ご質問等に関して記載させていただいております。こちらに関しましても、審議内容に基づいて適宜修正する予定でおります。

資料については以上となります。

○松田会長 それでは、本日の進め方、ないしは審議の見通しですけれども、まず、資料14を少しごらんいただきまして、前回の評価表の2までの審議に基づきまして、こういう形で案ということで会議のほうから提出したいというのがございますので、まずご確認をいただきたいというのが1点目です。

その後、評価表3の内容に入っていきたいんですが、これは資料15という形で委員の皆様方からのご意見を少し書式に落とし込んでまとめてくださっていますので、この資料15に基づいて進めていきたいと。

時間的には、今回の会議と次回の会議で資料15は少し検討ができればということで考えてございますので、資料15が24ページほどの資料になりますから、半分ぐらいまではいければありがたいかなというようなことで、9時が閉会の予定でございますけれども、進めさせていただければなと思っております。

では、早速ですけれども、前回の審議内容をまとめていただいた資料14につきまして、見ていただいて、ご指摘あるいはご意見、ご質問等ございましたらいただければと思いますが、いかがでしょうか。

資料13もあわせて見ていただきながら、前回のご審議内容を思い起こしていただいて、少しこのあたりを、ご指摘がございましたらいただきたいと思っております。

今、ちょっとご連絡をいただいたんですが、原島委員が、少しお仕事が延びていらっしゃるやまして、場合によっては欠席になる可能性もあるということでのご連絡をいただいているところでございます。

それでは、こちらに関しましては、本日、後の時間でも結構ですし、あと、最終的には次回の会議でもまとめという意味では結構かと思っておりますので、お気づきの点がありましたら、またご意見をいただくということで、ひとまず資料14のほうは確認いただいたということで、次に進めさせていただくという形で、行っていただいたということでよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○松田会長 ありがとうございます。

では、資料15をごらんください。15の進捗状況を、この会議として確かめていくというのが審議の内容でございますけれども、資料13のほうに事前にいただいておりますご意見がまとめられています。これを15のほうに、先ほどのご説明でも書き写していただいておりますので、資料15のほうには、どの委員の方が言ってくれたかという記載がないものですので、少し合わせて見ていただきながら、この意見、私の意見だわというような確認もいただいて、少し進めさせていただければと思います。

資料15は、基本的視点1、目標1という形で項目立てがされておりますけれども、この目標というレベルで見っていきますと、目標の1から6までが24ページまでに記載されているということになります。そこで、目標ごとに少し見ていくという形で進めさせていただければと思うのですけれども、よろしゅうございますか。

具体的に言いますと、例えば目標1というのは、ページ数でいきますと3ページまでが目標1になります。4ページからは目標2になります。

それでは、一旦3ページまでというまとまりの中でご審議をいただくというような進め方をさせていただければということですので、よろしいでしょうか。

それでは、まず、目標1の内容、3ページまでのところで、少し資料を見ていただきまして、事前のご質問、あるいはご意見、加えまして、本日見ていただいて、お気づきになりましたところがございますら、ご意見をいただければと思います。また、特にこの評価表3につきましては、もちろん市のほうに進捗状況をご確認いただくということもありますが、この会議の中でも、こういうことを進めればいいのか等々の、委員の皆様方同士の意見の交換ということも大変重要な内容だと思っております。ですので、市のほうに確かめるという作業と、それと委員のほうから意見をちょっと議論し合っ、ご意見としてまとめていくというようなこともぜひお願いできればと思いますので、よろしくお願いたします。

お願いします。

○新保職務代理 2の子どもオンブズパーソンのことについての評価に対しての意見は私の意見ですけれども、ずっと私の意見が、評価をずっと自分で、Bとか、Aがいいとかとやっているんですけれども、これ、以前の評価がそういうやり方だったので、私は全部自分なりの評価をつけているんですけれども、ほかの方々はちょっと意見が多いので、そのあたり、ずばり評価をして申しわけなかったかなとは思っているんですが、このオンブズパーソンについてはここにも書きましたけれども、事業の内容としては設置するということが目標なので、設置をするということに対しての、事業実績の中では「相談窓口」を記載したとか、そういう記載はあるんですけれども、実際に設置に向けての動きというのは見られなかったので、ここが25年はC評価で、26年はB評価になっているんですけれども、評価が上がる理由は、ちょっとこれでは弱いなと思ひまして、C評価という意見を記述いたしました。

○松田会長 今のところ、関連しまして、何かございますか。

○森田委員 横に行くと、設置については検討というふうにはずっとあるんですよね。新保さん、そうですね。

○新保職務代理 そうだと思います。検討の具体性が見られない。

○森田委員 ということですね。これだったら、いつまでたっても設置できない。きっと、これ、27年だけで、27、28、29、平成30年まで続くのか。何か、できるのかなと思ってしまいます。これは絶対になければいけないと思います。だって、子どもの最善の利益を支えますと目標1でありますよね。そして、事業の内容、子どもの声を聞き「子どもにとっていちばんいいこと」を一緒になって考えるオンブズパーソンですよね。これってずっと、どうしてこういうふうには、検討するになってしまったのか、なぜが知りたいです。以上です。

○松田会長 そのあたり、ちょっと状況を、市のほうからよろしいですか。

○児童青少年課長 こちらにつきましては、評価の理由でお書きしたとおりですけれども、現状で各窓口というのはそれぞれ持っていますので、そういった中をまだ統合して、具体的にオンブズパーソン設置という事業までには正直至っていないところでございます。各課の意見、このこと自体を全く取り上げていないということではなくて、各課の意見をそれぞれ聞きながら、最終的にはその設置が必要だという認識はあるんですけれども、なかなかそこまでの一致点に突出していないというのが現状でございますので、こういう形の

回答とさせていただいたところです。

じゃ、いつまでにできるんだということになりますと、正直言って、何年というところまではいっていないのが現状でございます。

○森田委員 各課とは具体的にどこであって、各課にほんとうに窓口があるというのは、私、具体的によくわからないので、教えていただけますでしょうか。

○児童青少年課長 この「のびゆくこどもプラン」の会議に関連する課、全部出ていただいたときに、その後この関係の部会を開いてやっていますので、基本的には、この載っている課ほぼ全部ということになります。

○森田委員 載っている課。

○児童青少年課長 教育委員会から、子ども家庭部から、全てというところになります。

○森田委員 実際にその各課に子どもたちの声とか行っていますか、親御さん。

○児童青少年課長 一応、そういう声を聞いているというふうには聞いております。

○森田委員 それを各課で問題を共有し合ったりとか、話し合ったりするという場が、今はされていないということですよ。

○児童青少年課長 現状ではそういうことになります。ただ、必要なところによっては、連携をとりながら対応しているというふうには聞いております。

○森田委員 その連携をとりながらというのは、どういうふうに連携をとっているのでしょうか。

○子育て支援課長 具体的な連携の方法ですけれども、例えば具体的な窓口として子ども家庭支援センターの相談窓口、それから、教育委員会で学校に配置しているスクールカウンセラー、それからスクールソーシャルワーカー、そして児童発達支援センターきりりも学齢児のお子さんにもかかわっていますし、それから、教育相談所です。具体的にはこういったところが親御さんや、それからお子さんの声を直接聞いています。必要があれば、より専門性の高いほうへご紹介するとか、いろんなところと連携をとるとかということをお個別のケースに応じてやっているということになります。

○森田委員 それを、共有が各課でできていないということですよ。

○子育て支援課長 先ほどの共有と、私が言っている個別ケースの共有というのは別であるかなというふうに思います。先ほど、共有ができていないということは、全ての課を集めた連絡会を持っているんですけれども、この施策全体についての連絡会の中で、例えばオンブズパーソンが必要であるとかどうだとかというところの話をしている場と、それから、一件一件の個別ケースを扱っている場とは、分けて考えた回答だったと思います。

○水津委員　　だから、そういうことを統計的に、多角的に見るための第三者機関としてこれを設置しましょうというのが目的ですよね。その準備はまだできていないということであれば、やはりおっしゃるようにC評価ということになるのではないかと思いますけれども、いかがでしょう。各課がそういうことを全然把握していないとか、そういうことではないことは当然わかります。ただ、それをもっときちんといろんなところが連携できるような音頭をとるところが必要だという意味だと思うので、それを設置する努力という点に関して言えば進んでいないんだと思うんですけども、評価としては。

○布谷委員　　「のびゆくこどもプラン」の61ページの2節の、子どもオンブズパーソンの事業名称のところ、子どもオンブズパーソンについて、目標値と実施内容が平成27年～31年度と書いていて、実施を含め検討、その横の評価の方法が検討状況になっているんですけども、これは検討状況じゃなくて、最終着地を決めておかないと、今おっしゃったみたいにずるずるずるずるになってしまうので、せめてこの平成27年～平成31年を目標値と掲げるのであれば、評価の方法の最終着地の目標は、その会議で集まったところで、めどぐらいは立てておかないと、全然目標にも何もならないまま話し合いで、また経過、経過になってしまうので、次の会議でも少しでも前進ができるように進めていただければと思います。

○松田会長　　おっしゃるところは全くそのとおりだなという部分が多いと思います。
この評価表のまとめ方ですけども、目標値と実施内容というのが既に出ているものなんです。例えば、今おっしゃってくださったように、例えば実施を含め検討ということが目標値として既に出ている状況に対して、実施を含めた検討を行ったかどうかの評価に当たるという関係が出るわけですね。

○水津委員　　目標を立てた時点での着地点がここだったんでしょ。

○松田会長　　そうなんです。

○松田会長　　という形式上の部分が残されるところがあるんですね、これらの行政評価というのは。

○森田委員　　何でそこに置きちゃうんですか。そんなところに置きちゃ、そもそも。

○松田会長　　そもそもですね。それは多分、このときの議論というのがあって、ここでそういう置き方をしているということですけども、だから、そういう意味では意見として、目標値の置き方等が少し曖昧さが残る部分で、こういう設置に関しての、少し進路の遅れというものを引き起こしているのではないかと。そういう意見は、ひとつ委員の皆様方から、そういう形で今も感じるんですけども。評価というのは、つまり目標との関係で

の評価にならざるを得ませんので、そういう目標値との関係で評価をしていくというスタンスも、一つ観点としてはどうしても必要になるんですね。

○森田委員 どうしてこんなしつこく聞くのかといいますと、やっぱり多いんですよ、問い合わせが。前回のこの会議から今日のこの会議までの間だけでも、例えば問い合わせや相談で受けた、その内容を聞いて、それだったら教育委員会、それだったら保育課にと言ったら、もう言いました、もう相談しましたという声が多いんですよ。そうしたら、一体どこに相談すればいいのか。まさか、もううちで、そうしたらやっぱりその事柄についてはとめておきたいと思うんですよ。そこでまた、いや、やっぱり、でもうちは無理です、やっぱり教育委員会に相談してくださいなんていうふうには、とてもじゃないけど私は言えないです。

なので、このオンブズパーソン、やっぱりそういう声が上がったよ、課を超えてその問題について共有して一緒に考えようよということは、やっぱり大人としてそういう態度は子どもに見せなければいけないと思うんですよ。子どもは今生きているわけだから、この評価表だったら、それは平成30年とか置いてもいいですけども、今、子ども、そのとき生きているのに、それを誰も受けとめてくれなかったら、どうすればいいのでしょうか。

○新保職務代理 今おっしゃったこと、すごく大事なことで、なかなかこの小金井市の中で持っていきどころのない問題もあると思うし、私自身も、実際、ああ、ほんとうに子どものオンブズパーソン、必要だなと思ったのは、もう10年ぐらい前です。そのときに、やっぱり第三者機関というのがとても大事だと思ったんですよ。小金井市と利害関係というか、市の中でのしがらみとは別に、ほんとうに子どもの立場に立ってかかわってくれる第三者機関、オンブズパーソンってすごく必要なことだなと思ったんですけども、福祉オンブズマンもいらっしゃいますけれども、子どものオンブズマンに関してはなかなか難しいところがあるのかなということは実感として思います。

今は、私もずっと長いこと、この評価をやってきて思うんですけども、ここの中で議論ができることというのはそんなになんかと思うんです。ただ、私たちはここで意見を述べるができるので、その意見をこの評価表の中で反映させて、来年もまたこのことについて進捗がないようだったら、もっとみんなでこの機運を高めましょうという、そういう活動かなと思うので、多分、これ、100事業まではないですけども、今は100以下になりましたけれども、その事業一つ一つに対して一つずつ意見を言ってい

ると、やっぱり枠が少ないと思います。なので、一応、この事業の中での役所が出した評価を、私たち、ここの委員としての独自の評価を出して、小金井市、もっと頑張れと、もっとちゃんとここをやってくださいという、その意見を、傍聴者の方もいらっしゃる中でまとめていくところなのかなということは思います。

○森田委員　　でも、その全ての問題の根っこは全部同じだと思います。やっぱり大人の子どもに向き合う態度はやっぱり全部同じだと思います。

　　以上です。

○松田会長　　ほかはいかがですか、この件に関してですね。

○馬場委員　　私もC評価です。確かに理屈はわかるように、検討すれば多分Bがついたり、Aがついたりするというシステムになっているとは思いますが、少なくとも各種の窓口が充実してだけではなくて、窓口の担当者と年に1回でもいいから情報を共有したとか、そういう記述がないとCからBにするのはちょっと賛成しかねるなというところですよ。

　　以上、意見です。

○松田会長　　そういうご意見ですけども、市のほうはいかがですか。

○子ども家庭部長　　オンブズパーソンの必要性というのは、やはりどなたも感じていらっしゃるのだと思います。実際に第三者機関にそういった内容を依頼する、委託するというようなことについては非常に課題が大きいかなというふうに思っておりまして、先ほど子育て支援課長のほうからも、さまざまところで相談を実施をしているということで、もちろん子ども家庭支援センター、児童相談所、また、東児童館におきましては思春期相談という形でも行っているところがございます、今年の8月7日に23区と多摩の26市に、電話でございましたけれども聞き取り調査を行ったところ、23区の中でも第三者機関のオンブズパーソンを設置しているところは3区となっております。それ以外は設置はしてございません。やはりさまざまな課題が大きいのかなというところと、あとは各自治体において、小金井市と同様に相談窓口というものを設置をしているはずなんです。ただ、今、お話にございましたように、では、それぞれの窓口の連携が十分にできているかということについては、それはやはり今後の課題になってくるのかなというふうに思っておりますので、目標のところには設置というところで終わってございますが、設置を含め検討ということで、市としては、Bということであれば検討を行っている、そのように認識をしている中で、そのような評価になったというふうに考えてございますので、ただ、今、委員の方々からさまざまなご意見をいただいたことについては重要

なご意見として賜りたいと思います。

以上です。

○松田会長 というお答えです。

そうしましたら、この2番のことにつきましては、全体の評価の進み具合を含めまして、関係性というのが出てくるところもあると思いますので、少しペンディングという形で残していただきまして、もう少し先に進めさせていただくというようなことによろしいでしょうか。

この問題に関する、やはり会議としての重要度とか必要性というものは、委員の皆さんのご意見として、非常に強いという、それは今お話をしているのはっきりしているところでございますので、評価というところに具体的にどう反映させていくのかということに関しましては、少し他の項目との関係の中でもう一度検討してみるというようなことで進めさせていただければなというのは、ちょっと今思ったところです。

いかがですか。もやもやとした感が残っているというのが正直なところだと思いますので、あまり強引に進めるつもりもございませんので、少しご意見を出していただいてももちろん結構ですけれども。

○小幡委員 もやもやしていますので、ちょっとだけ。

先ほどのオンブズパーソンで、私は、単にこれを見ただけの話として捉えたときに、おそらく今の事務局のお話を聞いていない方々がこれを見たときには、オンブズパーソンの設置としてのところの評価なのに、窓口を見直したとか、そういうところの記述でB評価になっているというところは、やはりちょっと疑問が残るかなと思います。なので、オンブズパーソンの設置については引き続き検討しているのであれば、前年度と同じCだと私は思いました。ちょっとシンプルに考えました。

○水津委員 どうしてももやもやすることが。設置に対しての、すごく高いハードルがあるということはよくわかります。ただそれをお調べになったのも結構だと思うんですけども、3区しかやっていないからなくていいみたいに聞こえるのが、ちょっと私の中でどうしてももやとする部分なので、そういうことではなくて、どういう部分が難しく、どういうふうなやり方だったらできるのかとか、そういう検討をしていただきたいところだと思います。

○松田会長 ほか、いかがでしょうか。

子育て会議の点検・評価としてはCということで意見をまとめるというのも、もちろ

んそれが問題のあることではございませんので、審議を尽くしてそういう形でまとめていくということは必要だと思いますので。ただ、少しペンディングという形で送ろうとしたというのは、その他の項目に関しましていろいろご意見がこれから出ます。全体の問題としてどういう形でこの評価をまとめていくのかというのが、わりと、今回、新しく入られた委員の皆さんが多いので、一つ一つ、まず手前から積み上げていったときに、これがCならば、あれもDだわとか、Eだわとか、そういう形で全体の捉え方がちょっと、バランスではないんですけども、全体の枠を見てということで、今決めるのは難しいかなとちょっと思ったというようなことだけでございまして、決して何かこれを、いやいや、Bにしましょうということをお伝えしたいわけではほんとうにございませんので、そのあたりで、ちょっと詰めまして、もう少しご意見がもしいただけたら、今、ご発言のない委員の方も含めまして思うところなんですけれども、いかがでしょうか。

もやもや感が残るまま進めるのはいささか不本意でもございますので、ひとまずここは評価としてはCということで、逆に、ちょっと置きまして、全体を見た中で、また後で戻ってくるというような進め方でもよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○松田会長 では、そういう形で進めていきたいと思います。

それでは、次、2番以外のことで、目標1の範囲ですね、3ページまでのところでございます。お願いしたいところでございます。いかがでしょうか。

逆に、ちょっと意見をいただいている、評価のほうは「(要検討)」という形になっています。3ページの③の1番、2番の項目あたりからご意見をいただければと思います。

○岩野委員 3ページ、③子どもへの虐待や犯罪を防止しますの番号1、虐待対応事業の評価ですけれども、B評価になっているものを、私個人としてはA評価がいいというふうに判断いたしまして意見を述べさせていただきました。

その理由ですけれども、評価の方法自体が協議会の開催回数ということで、25年度の現況と26年度の進捗を見比べると、明らかに開催回数は増えている。それはもちろんニーズがあるからこそ、その必要性があるからこそ開いているんでしょうけれども、これだけ回数をかけてマンパワーがどれだけ割かれているかというところを考えますと、やはり25年度と同様な評価ではなくて、A評価にしたほうが妥当かなというふうに考え

ております。

子どもの虐待というのは非常に、発生時、喫緊の問題として早急に取り組まなければならない課題だと思いますので、それに対して速やかに取り組んでいく姿勢も見受けられますので、そういう点からもA評価が妥当かなというふうに考えて、このように意見を出させていただきました。

以上です。

○松田会長 いかがでしょうか。

○新保職務代理 今のご意見にも同じ評価があげられるなら、この評価をあげていただくと、こんなことを言うと、ここで皆さんから何と言われるかわからないですけれども、職員の努力というものは、やっぱりなかなか表に出てこないんですよ。それで、もうほんとうにここに書いてあるように、25年から26年に職員も充実してもらっていますし、今、結構ネットワークよく動いているし、やればやるほど出てくるんですよ。なので、それを一つ一つここで評価することはできないですけれども、やっぱり数字の評価から充実してきているんだなということで、A評価に上げていただけると私もありがたいなというふうには、私がやっているわけではありませんけれども、かかわる者として、皆さんの頑張りはここで評価されているという形は望ましいなと思う。だけど、じゃ、Sになるにはどれだけ大変かというところもあるので、いろいろ難しいところはあるんですけれども、A評価になれば、日ごろ、虐待、それから要保護児童にかかわっている方たちの励みになると思います。

以上です。

○松田会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○森田委員 多分、高橋委員と、26年でしたよね。その内容は具体的にはちょっとお伝えすることができないんですが、現場で、高橋委員の園とともにかかわったケースがあります。ただ、そのときにも、やっぱり公的機関ではなかなかそれが受けられなくて、やむを得ず2園に分かれての対応というふうになったんですね。そのときも、うまく連携できて各機関が連携し合っているというふうにはやはり思えなかったという感想を持ちました。

やっぱりS評価になることを、評価はAでもBでもCでもいいんですけれども、ちょっとうまく言えないんですが、この数字の中には入らない、去年、1年以上になって引き継いだケースだったので、子どもの命とも直結することなので、何とかSを目指して、

皆、頑張ろうねと、現場でもっともっと連携し合って対応できたらいいなというふうに思っています。

○高橋委員　　今の森田さんがおっしゃったケースについては、ケース会議に参加させていただいて、いろいろ検討することができたんですけども、保育園ですと、支援センターと連携するケースが結構多いんですけども、必ずしも要保護児童のケース会議に呼んでいただくというか、参加させてもらえないケースがすごく多いんですね。日々そういう心配があるので保育園でお預かりしているというケースであるにもかかわらず、ケース会議に参加できないという声をほかの園からも聞きますので、その辺について、やっぱり少し不安を持っています。

○松田会長　　いかがですか。

○新保職務代理　私もどこまで話していいかわからないんですけども、私は要保護児童対策地域協議会の一員なんです。それで、いろいろなケースについてもケース会議に行ける立場にもあるんですけども、でも、一つ一つのケースで構成メンバーをどうしていくのかというのは、やっぱり子ども家庭支援センターで判断していくんだと思うんですね。もちろんケース会議を開けないケースもあると思うし、やっぱりケース会議を開くって、結構調整をとったりとか、みんなの都合を合わせたりするのもなかなか大変で、私も何かうまくお伝えできないんですけども、そういう現場のご意見は確かにあるとは思いますが、ケース会議ひとつ開くというのは結構大変なことだと思います。ですから、開かれたケース会議ではいい結果が出るように、皆さん、連携ができているとは思いますが、ですけど、そこまで至らないケースも確かにあるので、けど、なかなかプライバシーのことですので、ここではそれ以上言えませんが、日々現場が頑張っていることを評価できるという部分では、ここは評価を上げていただければありがたいかなというふうに思います。

○森田委員　　高橋委員おっしゃるように、保育園では日々の日常として抱え込んでいる状況なんです。これに関してケースカンファを開催してくださいということで、何度か私がそれを調整をして行ったことがあります。なぜなら、それをしないと絶対だめだというふうに思うから。やっぱりどこかだけが抱え込んでしまうのはとても危険だなというふうに思うことが、やっぱり現場の保育園ではとても多くなっています。なので、もちろん行政がかかわって、行政、何も内容をこちらは知りたいわけではない。ただ、こちらの様子等々が必ず参考の内容になるので、受けとめてもらうためにも、やはり大変ではあ

るけれども、ケースカンファというのは小まめに現場の保育士たちがそれで疲れ切ってしまうないようにして、こちらからは要請があったときには、スムーズに、そのケースカンファの場を開催していただけたらなというふうに思います。

○松田会長　　ほかはいかがですか。

そういうことで、ちょっと伺っておりますと、基本的には実施回数等が伸びているという部分での現場の頑張りということと、一方では個別事例で見ていったときの、まだまだ難しさというものが残っているということがご意見としてあるところだと思いますので、確かに評価というのは、何を視点に考えるかで随分変わってくるところがありまして、絶対的な評価をするのか相対的な評価をするのかというようなところで随分違うんですね。例えば回数なんていうことで評価をしていく場合には、基本的にはまだまだ、確かに100%Sではないのはわかっているんだけど、昨年に比べてかなり頑張ったという相対的な評価という視点で見ているので、ところが、個別の事例で、こんなときにほんとうに厳しかったとか、こういうこともまだ改善されていないというところを見ていったときには、絶対的な状況から評価をすることになると。

もちろん、問題は状況に応じて、いつでも相対評価がいいわけではありませんし、そういう意味では逆に相対評価を取り上げて、いわば応援するといいますか、評価というのは決してだめですねということを使うだけではなくて、評価することで頑張ろうというふうに後押しするというのも評価の機能だと思いますので、そのあたりをぜひ考えていただいて、委員会として、会議として、ほんとうに小金井の子育てが、しっかりと一歩一歩着実に進んでいくということを考えていければなとちょっと思うところです。

というようなことを言ったからといって、だからAですとか、Bですねという話にならないんですけども、いかがでしょうか。

今までの話でまとめるとすると、Aという評価をしつつ、もろ手を挙げてAではないんだというところの難しさを備考欄として意見書きしていくと、そういうようなところがひとつまとめどころかなとは思いましたが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○松田会長　　では、そういう形で、備考欄で意見として書くあたりは、今のご議論をいただいた中で、事務局のほうでちょっと検討させていただくということで、またそれを委員の皆様にはご確認いただくというふうにしていきたいとしたいと思います。

それでは、次、2番の内容に関しまして、いかがでしょうか。

○新保職務代理 これは新保が評価しているんですけども、ここにも書かせていただきましたけれども、虐待防止マニュアルの改訂をいたしまして、随分わかりやすいマニュアルにもなりました。そして、駅前にて関連グッズを配布したというのは今までやったことがないことで、これは高く評価したいかなと思ひまして、11月は虐待防止月間ですけども、来月ですね。ですので、このところは、評価の方法が、キャンペーンの実施状況とございますので、評価に上げたいなと思ひました。

○松田会長 いかがでしょうか。

実施状況において、少し質が高まったんじゃないかという面からのご意見だと思います。

そうしましたら、こちらのほうはそういう形で、評価としては少し頑張り分をA評価という形であらわすということによろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○松田会長 ありがとうございます。

あと、3ページまでのところだと、一遍戻っていただきまして、2ページの②の2番、評価としてはAですけども、ご意見として、貫井北町の分館ができたということが集いの場になっていてということで、ちょっと。

○小幡委員 特に評価に関して直接の意見ではなかったのですが、私からは言わなかったんですけども、ほんとうに貫井北町分館ができたことで、特に中学生、あそこをととも利用して、受験勉強に使ったり、もちろん受験じゃない子どもも勉強に使っていたり、あそこのフリースペースがととも子どもたちの集いの場となっている。特に中学生、どこか行く場所がないということが時々、ここでもお話に上がっていましたけれども、その中の一つになって、いい場になっているなというところを、ちょっと意見として書かせていただきました。

○松田会長 中学生の居場所というのは、ほんとうにこの会議でも何回か議論になっていまして、そういう意味で少しいい場があったということで、ご紹介いただいたと。

○沢村委員 私は意見では出してないんですけども、アイデア的には近いところですので、この子どもの集いの場という点もいいし、あと、学童とかの保護者会を開くのに非常に便利で、A評価で。

○松田会長 もう一点、3ページの③の4番の項目で、継続確認ということでご意見のあったもの

をつけていただいているので、こちらを。

○小幡委員　これも前回の会議のときに、カンガルーポケットは、お願いするときはお願いするけれども、その後、継続しますかということも特に確認もなく、いつの間にか時間だけが過ぎていって、いつまで、これ、下げているのかしらという状況になっているという話があったと記憶しています。その中で、やはり継続確認をするということで、毎年やったださっている方とのコミュニケーションが大事なんじゃないかというお話があったので、それをちゃんとこちらの評価でやっていただいたということがとてもよかったと思ひまして、書かせていただきました。

○松田会長　ありがとうございます。

○新保職務代理　カンガルーのポケットのこと。

○小幡委員　そうです。

○新保職務代理　ごめんなさい、今、ちょっと探しています。

すみません、それにもかかわっているんですけども、カンガルーのポケットも、何かあったときには、子どもの安全にかかわることが社会的な関心事になったときに、小金井市はこのカンガルーのポケットがありますというふうに話題が上がっていくんですけども、地道な活動で、なかなか人数も増えなかったりするんですけども、一応3年に1度は全戸の確認作業をしようということで、今年度、その年に当たったんです。なので、ほかの団体はほかの団体でやっていると思うんですけども、募集团体は3団体ありますので、民生児童委員と、健全育成と、それからPTAとありますので、私は民生児童委員のほうですけども、六百何十件かな、全部回りました。皆さん、とても好意的で、ただ、3年たっていると、ご高齢だったお宅がいらっしやらなくなっちゃったりとか、そういう継続確認もできましたし、その際は新規もやっていますので、この活動は継続的に続けていくことかなと思っています。

○小幡委員　そうしますと、これ、ここの会議で出たからというわけではなく、ずっとやっていたということですかね、3年に1回。

○新保職務代理　そうです。ただ3年に1度なので、ちょっとわかりづらい。例えば学校だったら、中学だったら1年生で入って1年のときにあっても、もう卒業したらなくなったりとか、小学校の場合は2回来ますけれども、3年に1度。そういうことなんです。ですから、保険がかかっていますので、名簿の整理をするために必要な作業です。

○水津委員　民生児童委員のほうの管轄はきちんとされているかと思いますが、健全育成のほうは、

この間、ちょっと話題になった感じで、そんなにきちんと管理がなされていない状況があったので、今回、会議の中でも出ていましたので、少し整理されると思うのと、小学校はやはり非常に難しく、卒業しちゃうんですね。なので、その辺の管理の問題とかがまた別に必要かなとは思っているんですけども、状況としては、継続は継続していますし、皆さん、努力はそれぞれされていると思います。

○新保職務代理 ほかの団体のことについてあまり私も口出しはできないんですけども、一応課題はあります。学校を卒業したらどうするかとか、名簿の整理がどうきちんとされているかという課題はあるんですが、それは随時検討しております。報告です。

○松田会長 大変様子をしっかりと情報交換をさせていただくことが大変わかりやすくてきたと思います。

3ページまでの目標1のところ、意見がない部分に関しましても、今、気になる点等がございましたらと思いますけれども、よろしゅうございますか。

○小幡委員 1つだけ確認ですけれども、評価のところ、3ページの3番の保育課のところ、Bという評価のところ、アンダーラインが入っているのは、これは別に変ったとか、そういう意味ではなく、そこだけちょっと気になった。訂正箇所にもアンダーラインを引いていただいているので、もしかして、これも何か変わったのかなと思って、私も前回のを見ていないんですけども。

○松田会長 事務局のほうでお願いしてよろしいですか。

○子育て支援係長 こちらの資料につきましては、たしか第2回目の会議の前に委員のほうに事前にお配りさせていただきました。その後、委員からご意見をいただきまして、事務局のほうで精査させていただいた結果、こちら、もともとAだったものをBに修正しております。修正等をしている点につきましては、こちら、資料の中でアンダーラインを引いてございます。

以上です。

○高橋委員 この評価の理由のところ、公立保育園では非常通報装置を各園に設置していると書いてありますが、平成14年度に認可園は全園設置をしています。ですから、あえて公立保育園というふうにかかれなくても、それ以後、認可された園については確認されているかどうかということはありませんが、学校110番とかを全園で設置していると思います。ただ、それは古い、平成14年度の話ですから、昨年度と比べてどうかという評価にはならないと思います。

- 松田会長 今の点はよろしいですか。それは承っておきます。
- 小幡委員 そうしますと、ここ部分、もともとAだったところがBに変更になったということで、前年度と評価が変わらない状況になったということでもよろしかったですか。
- 子育て支援係長 そのとおりです。BからBに変わらずということです。
- 小幡委員 わかりました。確認しました。
- 松田会長 そうしましたら、ほかにならぬようございまして、次に移りたいのですが、その前に、大分内容についてご議論いただいているところですが、先ほどの資料13の一番後ろのページをちょっとごらんいただきたいんですが、実はこちらの資料15は事務局のほうで作成していただいておりますけれども、実は民間保育園の加盟8園のほうでもこういう評価活動を実はなさっていらっしやいまして、13のほうでちょっとご紹介を高橋委員のほうからいただければと思います。
- 高橋委員 民間保育園の立場から見て、保育課の事業の評価について資料を提出させていただきました。全体的に保育課の保育所にかかわる事業内容では、公立園の内容だけしか資料化されていない項目が大変多いと感じました。民間園も市の事業を担っているわけですし、認可だけでなく、いろいろな保育施設が市の事業を担っているわけですので、認可園だけでも、数の上でも、公立5園に対して、平成26年度だけでも民間も8園あって、その民間園を含めて評価していないというのは片手落ちではないかと思ひまして、資料を提出いたしました。
- たくさん民間の保育施設ができつつありますけれども、保育所の役割が園児の保育だけではなくて、地域の子育ての拠点であるということも、どの園も認識していろいろな活動をしています。そこで、ぜひその資料に加えていただきたいということで、一応園長会に加盟している園だけでも、アンケート調査を行って、各園、それぞれ差がありますので、合計数で資料とさせていただきます。
- ただ、市から直接ではなくて、東京都からの直接の補助金による活動もありますけれども、活動そのものは市民のためのものですので、やはり皆さんに知っていただいて、民間の実績を把握していただいて、会議に反映していただきたいということで資料をつくらせていただきました。
- 資料の説明は以上です。
- 松田会長 このような資料をご用意してくださいましたので、かかわりまして、少し資料も見させていただきながら、ご意見をいただけたらということでもございます。

では、資料15の、続きまして、4ページから始まります、目標2につきまして、少しご審議いただければと思います。

目標2は、ページ数でいきますと6ページまでになりますけれども、とりわけ委員の皆様から非常にご意見いただいているということでは、まず、6ページの②の1番、2番、3番というところで、少しご意見をいただいているところが多いところがございます。

では、委員の皆様の方からお願いしてよろしいでしょうか。

鳴海委員から少しご意見をいただいているようではございますけれども、6ページの②の1番、児童館の事業につきまして、もしご補足をいただければ。

○鳴海委員　このことを、いろいろなところに、書いたんですけれども、こういう評価のときに、理由を書くに当たって、前年度のものを維持することが評価になる場合と、目標点に対して毎年積み上げていって目標に向かって成績を出していく、活動を上げていくというものがあると思うんですね。その際に、私が一番気になるのはコピペです。前年度と全く同じものがところどころで見えているんですね。ほんとうにそれでいいんだろうかというのが気になりました。そのまま維持されていることでいいものもあるんですけれども、やっぱり目標に向かって、市がどういう姿勢でその事業に臨んでいるかということ、市民は見るわけで、特に私は皆さんが今お話し合いをしていらっしゃるような事業の実態ということを知らなくて、この書面だけで、私は市のいろんな評価をすることになるので、なぜこのままで、同じ評価としていいんだろうかと疑問を持つところが幾つかあったということですね。今年度はこういう状態であって、ただ、こういう課題が残っている。そうしたら、その次の年は、この課題に対してこんな進捗があったというのが書かれるほうがいいんじゃないかということです。

ただ、こういう文書が、どう書くべきかということ、私自身はよくわかりませんので、こういうものだというんだったら、別に強くは言わないんですけれども、市民の印象としてはそのほうがいいんじゃないかなというのを思ったりします。

○松田会長　いかがでしょうか。

○鳴海委員　せっかく高橋さんがこれを出していらっしゃるのですから、どこかに組み込めないでしょうか。

○森田委員　今、じっくり、これ、高橋委員が出してくださったの、すごく重要だと思います。

○松田会長　これを、こういう評価のまとめの中に、使用するというのをしようといひますか、

組み込んでまとめていくということはいかがでしょうか。

○高橋委員 その資料の中に公立園だけの数字が載っていたりするという非常に疑問を感じて、ほかの園に呼びかけて実際やっている実績をとということで出したので、その評価が変わるかどうかということは直接的には考えていないんですが、ほんとうに民間園も含めた数字を書いているような項目もあるけれども、ほとんどが公立園だけをピックアップしているということは、やっぱり正しい評価じゃないのかな、評価にならないのかなと思っています。ただ、それがこれにどう反映されるかということについては、皆さんのご意見を伺ったほうがいいかと思います。

○松田会長 もちろんプラン自体は、小金井市の子どもたち、ないしは保育や養育というものの全体の状況に対して施策を行っている場合と、法律という形での施策を行っている場合と、やっぱり内容によっては種類があると思うんです。そういう中で、こういう公立以外の数字というものが、やはり反映されなければいけない内容というのは確かにあると思いますので、そのあたりをどういうふうにお考えになるかということだと思いますけれども、いかがですか。

○保育課長 ご指摘のように、点検・評価の中身については公立の内容が中心になってございます。あわせて評価するというのがなかなか難しい部分もあると思いますので、今回、資料の13の一番最後のところのあみかけで対応されておりますとおり、事務局コメントにあるように、今後、点検・評価、計画策定の際にどのような形で入れ込んでいけるのか、あるいは別の形に、もしくは違う形があるんでしたら、そういう形での表現となるかもしれませんけれども、決して公立のみ載せていくのが正しい形じゃないと、ご指摘のとおりだと思っておりますので、ちょっと検討させていただきたいなと思います。

○松田会長 ということは、今回のこの評価活動においては、市側としてはちょっと検討中だということで、並行して進めているという状態よろしいですか。

○保育課長 どういう形で評価の中に組み込んでいけるかということは内部で考えてみたいというふうにご考えてございます。

○松田会長 ということです。

○森田委員 難しい点というところは、具体的にどういうところが難しい。

○保育課長 民間の事業者の方が行っている内容について、なかなか市のほうでAとかBとかというのはつけにくいのが正直なところでございます。一定、例えば補助制度であったり、そういうもので誘導的に拡大したいと考えていることについては、全体の数、

利用者の数ですとか、そういう評価は可能だと思うんですけども、先ほど高橋委員からもありましたように、民間さんのほうで、例えば東京都から直接補助で行っている事業とか、そういうものについて市のほうが評価をかけるというのはなかなか難しい部分があるなと思います。ただ、地域の子育て支援の役割を民間の保育園の方にも大きく担っていただいているというふうに認識しておりますので、そういう点については、こういう事業評価の中で、どういう形で記載していけるのかというのは、内部でちょっと考えてみたいというふうに思っています。

○沢村委員 事実関係の確認ですけれども、この民間保育園で実施している事業に、市の予算というんですか、お金が使われているのかどうか。使われているのであれば、ちょっと評価をすべきだと思うんですけども、この点、質問です。

○保育課長 市のほうの予算から補助等を実施しているものでございます。

○沢村委員 もしそうなら、少なくとも数を把握して、事実としてきちんと載せるべきだと。

○松田会長 そのあたりを市のほうでご検討いただくと。今この場で結論を出すということができないと思いますので。それと、繰り返しになりますが、東京都あるいは小金井市という行政区分があって、それで実際に施策としていろいろ種類があるという中で、少しご整理をいただいて、それでこの数字を積極的に、そういう評価という意味での数としてはうちへ取り込んでいくという方向で、少しご整理をいただくということで、お時間をとらせていただくような形で、会議のほうからはお願いするというところでよろしゅうございますでしょうか。

そうしましたら、続きまして、先ほどの件ですけれども、評価理由が前年度と全く同一の文言表記になるということに関しては、いささかちょっと市民の側から見るとわかりにくいのではないかというご意見がありましたけれども、この点につきましてはいかがでしょうか。

○児童青少年課長 実際のところ、②の1番のところは、事業実績のところは年度によって人数が変わるところはあるんですけども、整備をするということになりますと市全体の話になってしまうので、どうしても記載上はこういうふうにならざるを得ないというのが率直なところでございます。ちょっと申しわけないですけども、それ以上でも以下でもないということしか言えません。

○松田会長 内部として考えた場合に、やはり文言としては、前年度と同様の文言にならざるを得ない場合もあるという意見ですけれども。

○鳴海委員　　ちょっとくどいかもしれないですけども、例えば3ページの③の3の、先ほどアンダーバーのついていたところが、公立保育園では非常通報装置を云々と書いてありますよね。設置したのはもう25年度のとくにですか。事業実績、この文章が、やっぱり25年度にも書いてあるでしょう。そうすると、これ、設置したという活動をした、その年は評価されるんだけど、もう評価した状態で次の年にそれだったら、その年は何をしたのかと読み取れちゃうんですね。もう前にも設置したじゃないかって。それを例えば設置しているものをずっと管理運営しているとなればわかるんですね。細かいことだし、言葉尻を捉えているのかもしれないので、申しわけないんですけども。

○水津委員　　やっぱり私も同じ文章が並ぶのは多少気になっていたんですけども、例えば今のところで言うと、設置している園もあるとなったときに、ここに事前の課題みたいなものが出るとか、それに対する答えが、こちらの次に出るとか、そういう書き方みたいなものが、やっぱり行政として、どこまでどう目標を持ってやったかということの指針にもなるので、ちょっとそういう努力を端々にしていただけると、同じものがいっぱい並ぶという状況が緩和されないですか。これ以上、もうやりようがないんですというものがあつたとして、それがB評価ということは、延々にB評価ですよ。

○鳴海委員　　特に今のところ、設置している園もあると書いてあるんですね。ということは、していない園もあつて、25年度からそのときに課題だったんじゃないかと。全部を設置したという状態にすべきだった。そうしたらB評価ないしA評価だと思う。それをやっていないんだつたらC評価じゃないかとさえ極端に言えば思っちゃうんですよ。ちょっといじわるにこれを読み取ろうとすると。だから、ちょっとした書き方で市民の感情が変わるんじゃないかと思ったりして。とりあえず、評価も文言も全く同じというのは避けたほうがいいんじゃない。

○松田会長　　今、評価の文言が同じになるという問題と、それと、継続事業に関してどういう評価の観点をとるかという問題とが、ちょっとご指摘いただいていると思うんですけども、戻りまして、3ページのこういう継続事業に関しては、設置しているということ、現在もしているということを表示しているのだという言葉ととるのか、過去にしましたということだととるのかというようなこともあるんだとは思うんですけども、確かにこのあたりの書き方といいますか、でも、現在、実際的に、例えば公立保育園では各園に設置しているという状態が継続されているわけですので、そういうことが明確にわかるような言葉の工夫というのは少しご検討いただいてもよろしいですかね。

一方で、後段の、設置している園もあるというのが、つまりそれが課題として全園に設置を促していくというところにあると見ているのか、あるいはこの状態が継続しているという、そのものでよしとしているのか等を、そのあたりの評価の内容がわかりにくくというようなところについても、少しご検討を次回までにいただくということによろしいでしょうか。

市のほう、どうですか。よろしいですか。

あとは、同じ文言が前年度と続いてしまうというのは、ある意味、評価の目標とか方法からしてということになると、変な言い方ですけども、無機質な内容がやはり出てくるときもあって、そうすると、やっぱり昨年度と同じようにしか書けないという面も確かに否めない部分はあるとは思いますが、市民の方への理解を深めていただきたいということと言うと、少しこのあたりも検討の余地があるのかもしれませんが、確かに。

そのあたりも、この面に関しましては、具体的にどういう改善策があるかというのは、僕も今考えてみてもちょっと難しい問題だなと思いますので、回答がすぐに出てくるということではないかもしれないんですけども、ちょっとご検討いただくということで、事務局のほうへ預らせていただくというようなことでよろしいでしょうか。

そうしましたら、次の質問は6ページの3番のところでございまして、プレーパークは学芸大の中にあるものもそうなのかというのがあるんですけども、これはご回答いただいてもよろしいですか。

○児童青少年課長 おっしゃるとおり、学芸大の中にあるものもプレーパークになります。それと、もう一カ所、くじら山のところでやっているのと2カ所やっております。

○沢村委員 ものすごく不勉強で、基本的な質問をしたのは私ですけども、それで、今年度が、これ、平成26年度の評価なんですかね。平成27年、最近、学芸大の中のプレーパークが、土曜日に行くとスタッフがいらっやあって、いろんなオリエンテーションというか、遊びのガイドみたいなのをしてくれるようになったんですね。そこは子どももすごく気に入っていて、保護者の間でも結構あそいいねというような形で、非常に私としては評価したいところですが、それが平成27年ということは、これをAにすることはやっぱりできないということなんですかね。もったいないなということ。

○児童青少年課長 これは26年度の状況なので、まだできていないということでBということでございます。

- 沢村委員 27年度でぜひ評価していただきたい。非常にいい施設だと思います。
- 松田会長 そうしましたら、ご意見でいただいていたところは、そのあたりですけれども、目標2、通して見ていただきまして、何かございますでしょうか。
- それでは、ひとまず次へ行かせていただければと思います。
- 次は、7ページから、目標3になります。12ページまでということで、少し分量がございますので、見ていただければと思うんですが、ただ、意見をいただいておりますところは最初の7ページにわりと集まっているところもございます。とりあえず評価のところ「(要検討)」という項目が、まずは7ページの①の4番になるんですけれども、こちら、ご意見いただきました委員の先生方からちょっと。
- 新保職務代理 奨学金のことですか。
- 松田会長 そうです。
- 新保職務代理 これは、私は前年度、「のびゆくこどもプラン」のときの評価で、ここの評価は皆さんの一致でA評価に上げたというつもりでいたんです。そのときに事務局のほうからも説明があったと思うんですけれども、他市ではこれは貸与なんですよ。小金井の場合は唯一、26市の中でも1つしかなかったかな、小金井だけだったかもしれないんですけれども、ちょっとそこのところ曖昧ですけれども、返さなくていいものなんですよ、給付なので。ですので、そういう取り組みをやっているところは他市にもあまり例がないので、この小金井市の財政状況の中でこの評価はぜひ上げたいとしていたものなので、私としては、これはBじゃなくて、前年度、24年度の評価でAに上げていたつもりでいたんです。ですので、今回、またB、Bで出てきているので、Aでしょうと思いました。
- 以上です。
- 松田会長 いかがでしょうか。
- 主に受給者数とか受給率ということで。
- 小幡委員 私も新保委員と同じ意見で、やはり給付ということで、小金井市としてよくやっているなと思いますし、人数に対しても、確かに前年度に対して、ほんのわずかですけれども、少し減少はありますけれども、ほぼその水準を保っているということで、評価はAでいいと私も思いました。
- 松田会長 受給者数とか受給率というものが一つの方法になっているんですけれども、数としては並行しているけれども、その並行している数を維持しているということは質的に非常に高いことだと、そういう評価をしてはどうかということだと思います。

いかがでしょうか、ご意見。

○沢村委員 大学生が全員というか、7人の応募に対して3人しか支給されていないというのは、評価の理由にもあった、今後、改善・検討を続けるというようなどころがあるんですけども、給付ではなく貸与にした場合に恩恵を受ける子どもが増えるということはあるんですか。ここがちょっと気になるところです。もちろん返さなくていいというのは受ける側にとってはいいんですけども、それによって、その利益を得る人がもし少なくなるのであれば、また違うやり方もあるのかなと思っております。

○松田会長 いかがでしょうか。

○子育て支援課長 ちょっと所管ではありませんが、給付しているものを貸与にしたらより多くの方に恩恵がいくのかということですけども、それはそうだと思います。ただ、事務局としては、他市ではそういうところが多いんですけども、給付のほうを続けているというのは、貸与をした場合、返していただくというときに、大学卒業、あるいは高校卒業したときに、やはり100万、200万の負債を抱えておられるということが社会的にも問題になっておりますので、少しでも給付を続けたいというところで、続けてきたということがあります。

以上です。

○沢村委員 そういうコンセプトでやられているのであれば、特にA評価にすることについて異存はないです。

○松田会長 こちら、A評価という形で、次回まとめさせていただいてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○松田会長 このパートで、もう一点、評価に関しまして「(要検討)」項目がございまして、ちょっと飛びますが、11ページの7番、ちょっとご意見を補足いただければと思うんですけども。仲間づくり事業です。こちらの資料13のページ数と15のページ数が違うので、なかなか発見するのが難しいんですけども、鳴海委員ですね。

○鳴海委員 私自身は、事務局からのコメントで了解はしているつもりですけども。ただ、字面としてはよくないですね。ちょっと何か書かないと、私みたいに素朴な印象を持つ人もいるかもしれないなと思います。

○松田会長 評価理由のところ、ご回答でいただいているコメントの趣旨が少しわかるように追記をいただけたらというご意見というふうに受け取らせていただければと思います。

今の点、よろしいですか。資料13の7ページを見ていただきまして、ページ数16番号

7という、子育ての仲間づくり事業というところですね。鳴海委員のほうから、参加者が1,000名程度減少していると。それでA評価はどうしてなのかというご質問ですけれども、事務局のほうから、幼児グループは毎回ほぼ同じ登録参加者により実施されており、4館の300回以上の開催数で1,000名の減少は、1児童館あたり1～2親子の参加者が減ることによって発生する数字であると。つまり1,000名という数字の意味がこういう理由になっているということで、そういうことからしますと、大幅な減少ではないというご説明をいただいているということでございます。

そうしましたら、こちらはそのままA評価ということによろしゅうございますか。

○新保職務代理 その同じ欄のところ、上の欄ですね。子育て支援課のゆりかごの事業についてですけれども、意見はこの中では述べていないんですけれども、ちょっとここで私の意見を述べたいんですけれども、よろしいですか。

ゆりかごが平成25年度の自己評価はAで、26年度はBになりました。それで、ゆりかごは平成16年に小金井市にできて、初めてできたところで、ひろば事業として10年以上にわたり大きく子育て支援に貢献してきたところです。ところが、この26年度に、ゆりかごカフェとか、いろいろな取り組みがなくなってしまったんですね。それで、いろいろな事情はあると思うんですけれども、私はやっぱり家庭でお子さんを育てている、小さいお子さんを抱えているお母様たちが集うひろば事業ってとても大事で、もちろん学童保育所のところにひろばが広がったりとかはありますけれども、やっぱりゆりかごの事業というのが、ゆりかごカフェで、子どもとちょっと離れて、お母さんが温かいものを飲めたりとか、私は以前、そこでお母さんが泣いたことがあるんですよ、子どもと離れたときに。やっぱりいっぱいいっぱいの気持ちのお母さんがそこに来て、子どもとちょっと離れた時間に、自分の気持ちをわーっと吐き出して、やっぱり泣き出さないにしろ、家庭の中でいろいろ煮詰まったものを抱えている親子さんというのはたくさんいらっしゃると思うんですよ。だから、小金井市の中で、やっぱりそういう親子さんたちが集う場所と、それから、いろいろな集い方というかな、やっぱりゆっくりお茶を飲む場所であったりとか、お母さん同士でもっと交流を持てる場所とか、それが職員の方がいることによって、やっぱりお母さん同士の付き合いとはまた別に、クッションがあって、いろいろなことを打ち明けられる場であるだろうと思うので、26年度、B評価ですけれども、いろいろとご検討いただいて、今後またここがA評価に上がっていくような取り組みを市としても考えていただきたいなという意見を述べたいと思います。

以上です。

○松田会長 資料15でいいますと、10ページの③の2番の項目についてですね。

ご質問もありますので、今のご意見とご質問をあわせまして、市のほうからお願いしてもよろしいですか。

○子育て支援課長 発達支援センターとの違いが利用者に分かりにくいということです。子ども家庭支援センターというのは、子どもと家庭に関する相談をどんなご質問でも受け付けますというのが子ども家庭支援センターの使命です。

それから、発達支援センターのほうでは、発達に関することを専門としながらも、子育ての悩みからご相談くださいというふうにするのをあえてしています。というのは、例えばお子さんの言葉が出ないときにご相談くださいとか、お子さんが学校でなじめないときにご相談くださいというようなネガティブな発信をすることで相談者のハードルを上げてしまうのではないかとということがずっと議論されてきました。ですので、それぞれ専門性は持っていますけれども、どんなご質問でもどうぞというふうに関口を広げるようにあえてしているんですね。発達に特化してしまうとなかなか呼びたい方が来てくれないというような問題を抱えているのが発達支援センターです。

教育相談所、それから発達支援センターと子ども家庭支援センターというのは、子育てに関するご相談はお受けしますと。その3つは全て同じようには関口を広げているつもりです。さらに、それぞれの専門分野がありますので、そちらのほうに適しているだろうということであれば、ご相談者の方と一緒にそちらで相談をしましょうというふうに関口を広げたいところですが、それぞれが促すように取り決めをしてやっているところです。

以上です。

○沢村委員 この質問、お教えいただいたんですけども、関口を広げるというのは大事なことでわかるんですけども、利用者にとってはどっちでも行けるというのがいいと思うんですよね。居住している地域にもよるので、近場で行って、理想、欲を言えば、子ども家庭支援センターに行き、そこでもし発達に問題があれば、そこで検査なりをして、ずっと通い続けられれば、そこでもできるというのが利用者にとってはかなり利用しやすいですね。どこかの段階で、あなたのお子さんの場合は発達支援センターに行ってくださいと、ちょっと宣告されるような状態というのは現状だと思うんですね。もし関口を広げて、できるだけ多くの人に来ていただくというのがその趣旨なのであれば、どちらでも発達支援ができる、週に何回かでもいいですけども、そういう体制にさせていただいたほう

が利用者にとってはありがたいです。総論的に発達支援センターができてすごく助かっている人たちは多いと思います。よりよいものを目指すのであれば、子ども家庭支援センターでも、住んでいる場所を問わず、近くに行けば助けてくれるというのが理想は理想だと思います。あくまで意見です。

○子育て支援課長 1点補足させていただいて、ご意見をいただいたところですが、そもそも子ども家庭支援センターでも発達相談をやっていました。これは臨床心理士さんを招いて、専門相談という枠を持っていました。それから、健康課でも、健康課の事業の中で発達について見ていく事業を持っています。それから、児童館でも発達の相談をやってます。それぞればらばらでやっていたんですけれども、例えばそれぞれのところが、保育所や幼稚園、それから学校と連携をとれるかという、なかなか難しいものがありました。小金井市としては、発達の相談は一本化していくんだということで、きらりで集中的に、そこと連携をすれば発達のことはみんなが連携しやすいようにというふうを持っていったのが今の事業体系です。ですが、沢村委員がおっしゃるように、それぞれ行ったところで検査が受けられたほうが良いという声もあったので、今、きらりのほうから保健センターに出張してくれる相談窓口をつくってやっています。

以上です。

○沢村委員 そういう経緯を知らずにしたコメントなので、対応していただいているということでしたら、わかりました。

○松田会長 そうしましたら、そろそろ予定されております時間に近づいておりますので、この目標3に関しましては、あと少しご意見をいただいているところが残りましたので、目標3の残りからということで、次回、進めさせていただければと思います。

今日はご審議いただきましたこの内容を、引き続き、次回、目標6まで進めていくということでやっていきたいということと、それと、このお話の前に出ました資料14も、もしご意見がなければ事務局のほうでもう一度ご精査いただき、点検、評価結果の報告書に盛り込んでいく方向で考えていきたいと思いますので、次回、もしご意見がございましたらいただければと思います。

それでは、最後に、会議日程の確認を少しさせていただければと思うんですけれども、次回が12月7日に予定されていたんですが、12月7日が、私のほうが大変急なことで、国のほうの別の審議会とどうしても重なってしまいまして、できればご予約を伺ってずらしていただくことができればということと、あと、第5回が1月、第6回が2月に開

催予定ですが、そちらの日程を少し調整させていただければということでございます。

まず、次回の会議ですが、12月7日の週でご検討いただければというところですが、12月8日の火曜日はいかがですか。ご都合が悪い方、ちょっと。12月9日の水曜日はいかがでしょうか。ご都合が悪い方がいらっしゃったら、お手を挙げてくだされば、市のほうはいかがでしょうか。大丈夫ですか。

大変申しわけございませんが、第4回会議は12月9日、水曜日の19時からという形でもお願いできればと思います。大変ご迷惑をかけて申しわけございません。ありがとうございます。

続きまして、第5回ですが、既にこれは平成28年の話でございますが、1月25日からの週で少しご検討いただければと思っております。まず、25日の月曜日、ご都合が悪い委員、いらっしゃいますか。よろしゅうございますか。

1月25日の月曜日に第5回会議を開催させていただくということで、お願いしたいと思っております。

最後に、第6回の会議でございますが、2月15日の月曜日からの週でもお願いできればと思っております。これも月曜日から伺いたいんですけれども、2月15日の月曜日、ご都合が悪い委員の方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

今日、ご欠席の委員もいらっしゃるんですけれども、全員確認をとりますと少し難しくなりますので、それでは、2月15日の月曜日に第6回の会議をお願いするということで、日程調整をひとまず終わらせていただきたいと思います。

それでは、本日も大変活発にご議論いただきましてありがとうございました。

では、事務局のほうに戻したいと思いますので。よろしいですか。わかりました。

では、次回、12月9日ということでお願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

閉 会